

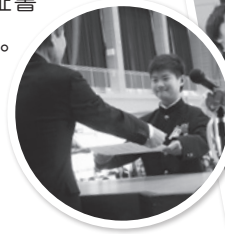
Friday

3/17

卒業おめでとう!

小中一貫校 東原座舎 小学部で最後の卒業式

市内3校の小学部で卒業式が行われ、164人が1つの節目を迎えました。中央校では卒業生94人の名前がひとりずつ呼ばれると、壇上に上がり「将来、看護師になってたくさんの人を助けたい」「中学生になっても勉強と運動を頑張ります」など、これからの決意を大きな声で述べていました。峰茂樹校長から卒業証書を受け取ると、見守る保護者に晴れやかな笑顔で披露。6年間でたくましく成長した卒業生に、在校生からもあたたかい拍手が送られました。多久市では4月から義務教育学校に移行するため、小学校としての卒業式は今回が最後となりました。



Sunday

2/19

多久の特産品「孔子みそ」でアイデア料理!

孔子みそ料理 学生選手権を開催

多久市の特産品「孔子みそ」を広く知ってもらおうと「孔子みそ料理学生選手権」(主催:孔子みそ料理学生選手権実行委員会)が開催されました。一次審査には200点を超えるアイデア料理の応募があり、書類選考を通過した7点が2月19日(日)の二次審査で実際に調理しました。

“孔子みそ”らしさを前面に押し出したものや、隠し味の決め手に使ったものなど、趣向を凝らした料理は、見た目・味付け共に優れており、審査員を悩ませるものばかり。

最優秀賞には「みそ甘鯛のつつみ蒸し」を作った西九州大学短期大学部食物栄養学科の前田望さんのグループが選ばれました。孔子みその新たな可能性を見いだせた選手権となりました。



▲審査には力作が並びました!

Wednesday

3/1

志を高く掲げて

卒業生の思いを乗せ空を舞う連凧

小中一貫校 東原座舎 東部校の9年生が恒例の卒業記念の連凧揚げを行いました。卒業生42人と保護者、教職員ら100人が、思いを一文字に込めて書いたものを父親委員会が中心となって連凧に仕上げました。

「励」と書いた生徒は、「みんなの合格を応援したくて書いた。本当に揚がって良かった」と話しました。また、親への感謝を込め、自分の名前を書いたという生徒もいました。

古賀一哉校長は大空を舞う連凧を見上げ「生徒たちの成長を願い、10年以上前から続いている伝統行事。子どもの夢も共に大きく羽ばたいてくれると思います」と笑顔で語りました。



▲約100枚の連凧が大空に舞い上がりました!